

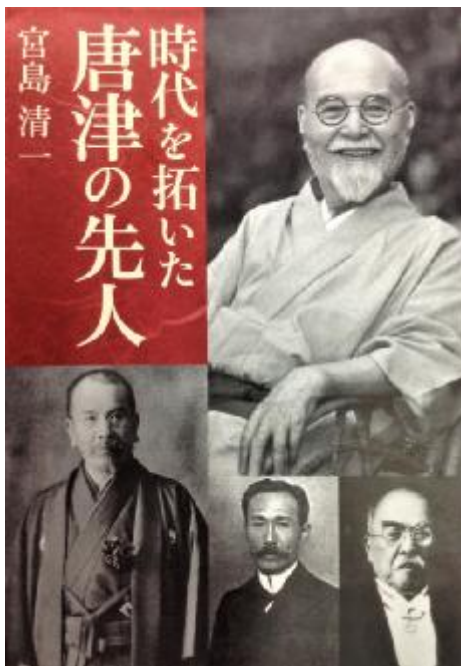
<出版物>

「時代を拓いた唐津の先人」が出版されました

明治・大正・昭和初期にかけて日本の近代化などに活躍された郷里唐津出身の大先輩の偉業を学び、勇気を得たい本が出版されました。

明治4年(1871年)に唐津藩は後に総理大臣になられた高橋是清を招聘し、藩校としての英語塾「耐恒寮」を開講。時代が激変する中、将来に不安を抱いていた明治初期に勇気のある唐津の少年達は、こぞってこの学校に入学。この藩校が現在の唐津鶴城同窓会の母校になります。そしてここに集まった少年達のその後の活躍ぶりなど郷里の偉人から学ぶことが多い本です。

東京駅の設計などで活躍された日本近代建築の父・辰野金吾、早稲田大学の基礎を築いた天野為之など大きな功績を残した人々。さらに、天才的電気工学者と呼ばれる志田林太郎や日本最初の女性理学士の黒田チカ、東京女子医大の設立者の吉岡荒太など学問や教育、産業、社会に貢献した唐津出身の18人の足跡をたどる日本近代化の側面史です。



■ 著者: 宮島清一

この本の著者は唐津鶴城同窓会: 東13期卒の宮島清一さんです。
現在も唐津市商工会議所会頭や宮島醤油(株)社長として活躍されています。

■ 出版社: 海鳥社

<投稿>

唐津鶴城同窓会 関西支部長
関西唐津会 会長

坂本 順一